

J R 東日本労働組合

NAGANO

E-mail naga-30-naga@hotmail.co.jp



2020年 1月15日 No. 345
JR東日本労働組合
長野地方本部
発行者：臼井幸一
編集：情宣部

2020春闘のたたかいスタート！ 全組合員・全社員でたたかいを創り出そう！

要求満額獲得



MyUnion

2020春闘がスタートしました。今春闘についてトヨタ自動車労組は、

トヨタ自動車労働組合が2020年の春季労使交渉で、賃上げの新たな仕組みを提案することが明らかになった。基本給を底上げするベースアップ（ベア）の一律の引き上げをやめ、ベアに用いてきた賃上げの原資を個人の評価に応じて5段階にわけて配分する制度を検討中だ。ベアの傾斜配分により成果重視の傾向が一段と強まる。年功序列や横並びを前提としてきた製造業で、約6万9千人の国内最大級労組の判断は日本の賃金制度のあり方を変える契機になる。

との報道がありました。また、経団連は今春闘について、

20年春季交渉の経営側に指針として、年功序列型賃金の見直しを重点課題として掲げた。職務に応じて賃金に格差をつけ、成果をより重視した昇給制度を設けるように促した。また、これまで賃金引き上げにばかり注目が集まっていたが、春季労使交渉の意味合いは大きく変わりつつあるとの認識を示し、今や高度経済成長期に機能した、効率重視で大量生産を支える雇用のあり方がうまく機能しなくなっていることがある。

としています。

一方、「連合」は2020春季生活闘争方針について、～私たちが未来を変える！すべての労働者の「底上げ」「底支え」「格差是正」と働き方の見直しで！～とし、概要として、

- すべての働く者の将来不安を払拭し、「経済の自律的成長」「社会の持続性」を実現するためには、分配構造の転換につながり得る賃上げが必要である。
- 2020 闘争においても、引き続き、生産性三原則（労使協議・公正分配・雇用拡大）にもとづいた「賃上げ」「働き方の見直し」を求めるとともに、働き方も含めた「サプライチェーン全体で生み出した付加価値の適正分配」に一体的に取り組む。
- とりわけ「賃上げ」については、「底上げ」「底支え」「格差是正」の取り組みを再定義し、広く社会全体に賃上げを促すとともに、企業内で働くすべての労働者のセーフティネットを強化していく。加えて中小組合や有期・短時間・契約等で働く者の賃金を「働きの価値に見合った水準」へと引き上げていく。
- 正規・非正規、組織・未組織を問わず、すべての働く者・国民の生活の底上げの実現を社会に向けて発信していく。

としています。

**3月3日（火）全12地本エリアで春闘総決起集会を開催します！
JR東日本で働く全ての仲間と賃上げを求めていこう！**